

白門祭を聞く

野村修也法科大学院教授講演会（5日） 8208教室

「ライブドアと村上ファンド」 ―検挙の意味と日本社会の行方―

突然の「M&A」騒ぎから事件へ。列島を揺るがした劇的な展開模様を伝えるテレビ報道番組のコメントーターとしても知られる人気教授の講演会。法学部生らをはじめ事件に関心のある一般人の姿もみられ、熱心に聞き入った。読者に代わって、手書きの取材メモから起こした「講演」要旨である。内容のソシヤク力はどうでしょうか。会場にいるつもりで、聴講してください。

時代の寵児 と言われた堀江前社長と村上前代表が、それぞれ何の罪で起訴されているのか、意外とみな答えられないですね。彼らのどの行為が法律上犯罪であるのかを、きょう正確に理解してほしいと思います。彼らのことを、罪は犯したが良いこともした、と評価する声がある。彼らが日本社会に及ぼした影響は大きい、その中でどの部分を伸

ばし、どの部分を否定すべきか、一人ひとりが意見を持たなくてはならない。きょうの講演が、それを検討する一つの礎にしてもらえたら、と思います。

ライブドアの2つの事件

1つ目に子会社による風説の流布と偽計取引があります。風説の流布とは、証券市場に嘘の情報を流すこと。その嘘によって、実態はないのに株価が激しく変動する。これは経済的インフラストラクチャーを汚す行為であり重罰に処せられるべきでしょう。ライブドアの子会社Aは投資事業組合Xが株主となっていたB社を初めて買収するかのように発表しました。しかし実際はライブドア本体がXに出資しており、AとBは兄弟会社だった。また株式交換によってXにA社株を交付し、A社株を大量に株式分割したことは偽計取引だった。本来株式分割では株価が下がるはず

だが、それを大量に行うことで株券印刷が追いつかず、買えない状態となる。このとき買いた文がたくさん入ると値が上がる。ライブドアは何のビジネスもしていないのに株価だけ上がるという仕組みです。

2つ目にライブドア本体の粉飾決算。XがA社株を海外市場で売却し、その売却益をライブドアの売り上げとして計上した。Xは別の企業のように見えるが、ライブドアそのものだった。それについて「ケイツネ（経常利益）20（億円）いくね？ かつこいいね」と堀江前社長はゴーストを出していた。公判でそんなことが明らかにされています。

村上ファンドのインサイダー取引

まずインサイダー取引とは何か。インサイダーとは内部者という意味で、よくあるのは社員が自社株の上がることを予め知っている場合です。公表前の重要情報を先んじて知っている内部者の犯行は、証拠が残りやすくすぐ捕まる。これは一般的なインサイダー取引だ。騙す人・騙される人との接触のない詐欺であり、犯罪行為です。村上前代表のしたのは、証券取引法167条

に基づき、「公開買付等関係者によるインサイダー取引」であり、一般的なものは異なります。

2004年11月8日から翌年1月5日まで、村上ファンドは日本放送株を堂々と大量に買った。だが株の所有率を発表しなくてもいいようにするため、それ以後1月6日から同月26日まででは少しずつ買い進めた。外資系ファンドが公開買付をするに発表し、その後株を買おうとインサイダー取引になるため買付をやめたのは、26日以降です。

事件が法改正を促した 奇襲攻撃、株主に熟慮のない企業買収を阻止しようとの動きが始まってい

ます。(法改正によつて)たとえば買収されそうになった企業は、買収する相手に買収意図を質問すると相手はそれに回答しなければならなくなった。「意見表明報告書」が対象会社に提出することが義務付けられた。それに買収者への質問が記載されていたら、買収者は「対質問回答報告書」を提出する義務が生じます。

また株式の大量保有報告書の特例が短縮された。本来ファンドは株を買おうと3カ月に1度、大量保有報告書を提出すればよかったが、それが2週間に1度へと変わった。これにより、陰でコソコソと株式を取得することはできなくなりました。



野村修也法科大学院教授

どう評価するか 堀江前社長や村上前代表は「ヒルズ族」と呼ばれましたよね。彼らヒルズ族の行動に一定の評価を与える見解と、行動を支持しない見解があります。評価する見解には、日本は「自由

な競争社会」を目指すべきで、勝ち組・負け組が生じるのはある程度は当然、格差是正は所得の再分配の局面で行われるべきで、競争を否定する必要はない、競争による緊張感が社会に富をもたらす、というようなものです。

支持しない見解には、日本は所得格差の小さい社会をめざすべきであり、金さえあれば何でも買えるという考えはおかしい、企業は株主だけのものではない、買収の中には企業の価値を破壊するケースも少なくない、といったものです。

そのどちらにも、それぞれ納得するところがある。それだけに、2人の行動は日本社会に割り切れない思いを与えたのだと思います。

敵対的買収は活発化するのか いま国際的競争の激化が起こっています。世界が1つになるにつれ、どんな業種も大きい企業が世界に1つあればいい、という考えになってくる。世界の中では、1つの国として国内のみでまとまって対決しないと勝てないだろう、と。それに伴い、同業他社との友好的買収が活発化しています。いち早く良い

仲間を見つけ、大きくなるという目的です。友好的な買収を否定する人はいないでしょう。互いに相乗効果が生み出されるとなれば、拡大していくはず。5年ほどのうちに日本で急増するでしょう。問題は敵対的買収です。最近あったものは、王子製紙VS北越製紙など。「敵対的買収も辞さない」と始まった。それでも同時並行的な友好的買収と敵対的買収が起こっていくだろうとみています。

日本の企業社会の方向 買収を通じた対日投資拡大路線に日本の企業社会はどういう方向をめざすべきでしょうか。これから、どんな外資系企業が乗っ取りにやってくるでしょう。「敵対的に買収しているのだ」という態度を示す者を制するために、「事後チェック型社会」の前提条件となるようなルールを、きちんと作らなければならないと考えます。そして日本を世界に開いても大丈夫、という状態にする。そのため法的インフラの整備が急務だと思えます。

大きな柄の水色のネクタイ。『プツ

YUI LIVE

(3日)クレセントホール

聞き惚れた。天使の琴声。全16曲

「子じゃない？」という女子学生らの声があった。よく通る声。教授は身ぶり手ぶりを交え、専門的な話の部分になると「もう1度話しますね」と始めていねいな話しぶりだった。「きょうの講演をきっかけに、ご家庭でも話してもらえそううれし

い」と語って、2時間の講演を終えた。質疑応答も活発だったが、やかに専門的な応答だったのでここでは略した。

(学生記者 池田園子)法学部法律学科2年)

会場時間前から、学生そして一般のお客さんが多摩キャンパス9号館(クレセントホール)前に列をつくっている。長い列に並んで会場に入ると、ファンから送られた、ヒマワリで形作られたハートに出迎えられる。9号館が、いつもとは違う空気に包まれていた。講演会を聞くときは違う、みんなの「熱」が伝わる。そして中大生だけじゃない。小さな子夫婦……たくさんのYUIのファンが、中大に集まった。

15:30過ぎ、照明が落ち真っ暗に。そしてステージにスポットライトが当たると、深いブルーのデニムに、

白のシャツ、黒のロングのカーディガン姿のYUIが現れた。「わーっ」という歓声と同時に、観客は一斉に全員が総立ちだ。

#1 feel my soul
澄んだ歌声——「天使の琴声」に、観客は皆聞き惚れる。前に座っていた小さな女の子が「YUIちゃんだあ」と両手を前で握って目を輝かせていた。

#2 Free Bird
テンポは変わり、アップテンポなリズムで会場の手拍子も強くなる。そのまま勢いにつけて、

#3 Merry・Go・Round

曲が終わると、「ユーイ!」「かわい〜!」観客がYUIを呼ぶ。それに答えるように「皆さんどうも来てくれてありがとうございます!」会場が大きな声援と拍手に包まれた。

「うん。改めましてYUIと申します。きょうはこれまでにないくらい熱狂的な感じで。八王子大?ん? ちがう。中央大学に……ごめんなさい!」

中大生は軽いショックを受けつつも、笑いが起こる。福岡出身のYUI。なまりと優しい声、そしてたどたどしさは、会場に和やかな空気を漂わせる。

「最後まで楽しんでいきましょう!」

#4 Cloudy
和やかな空気とは一転、ハードな一曲。会場のテンションも一気に上がった。

#5 It's happy line
#6 Ready to love
「ユーイ!」「ユイちゃん!」「カッコかわいいんだけど〜!」アコースティックギターに持ち替

え、お待ちかねの7曲目は……。「I remember you、聞いてください!」

#7 I remember you
手拍子をやめて、真剣に聴く観客たち。

曲が終わると大きな拍手と声援。「ユーイ」「かおる(映画『タイヨウのうた』の役名)」「ゆいた〜ん」。子どもの声も混じる。「ありがとうございます。かおるも、子どもの声も、女性の声も、男性の声も、大、大歓迎でございます!」

「皆さん、学園祭は楽しんでできましたか? あっ! お座りいただきたい。観客への気配りもあって、「やさしいなあ」。そんな声が聞こえた。

「うん。来るときは、多摩川の横を通ってきたんですけども、天気がすごくよくて、川の横の緑い草が生えている広場で野球をやっている風景とか見えて、ああ混ざりたいなあとか思いながら来たんですけど。実は八王子、私は初めて来ました! ああ、こんなところなんだあって思いながら。うん。天気予報とかは、八王子と東京は別に出るときとかあるよう

で」。笑いに包まれる。YUIへのスのトークに、会場は暖かな雰囲気。そしてさらに心があつたかくなるような8曲目。

8 Blue wind

9 Simply white

「肩の力を抜こう!とごう曲」とYUIが言うように、歌声、そして曲調に不思議と癒されてしまう。

大きな拍手。「ゆいちゃん」「好きな魚は?」という声に、「好きな魚何だろう??」と真剣に考える愛らしい姿に、観客から思わず笑いが

そして後半戦。07年1月17日に発売が決定した新曲のお披露目だ。

10 Rolling star

意外にも、ハードロック。優しかったり、力強かったり。いろいろなYUIが見える。新曲は力強く、大迫力だった。

11 HELP

ここで、YUIが「皆さん一緒に歌ってみてください」と呼びかける。「Oh Baby Baby Oh Baby Baby 夢見てるのよ 小さな頃から」のフレーズを、YUIにリードされながら、何度も手拍子をしながらかう。「めっ

ちやいい感じやね!!」——会場がひとつになった。

そしてメンバー紹介。ドラム、ベース、ギター、そしてYUI。このたった4人で、大盛況の会場を作り出しているのだ。

12 Just my way

13 LIFE

「ユイちゃん」「聞こえてる?」の観客の声に「みんなの声は聞こえております、ありがとうございます!」。

「では、最後の曲になります。映画「タイヨウのうた」の主題歌、Good-bye days、聴いてください。」「わっ!」と大きな歓声がかかる。

皆、この曲が一番聴きたかったようだ。

14 Good-bye days

濟んだ、綺麗な歌声に皆が惹きつけられる。手拍子は止まっていた。

「ありがとうございます! YUIです!」。「Iでした!」。YUIは一度ステージから姿を消すが、「アンコール! アンコール」の声と手拍子が会場に響き渡った。

そして、ロングTシャツに着替えたYUI再登場。

「アンコールありがとうございます

ます! きょう学園祭に招待してください! くださった委員会のみなさま、ほんとにありがとうございます。えうん……(沈黙に、笑いが起こる)。「Tomorrow's way、聴いてください!」

15 Tomorrow's way

YUI以外のメンバーはいなくなり、ステージはYUIひとり。

「はい。え〜と、きょうは学園祭ライブということで招待していただいたんですけど。今年学校を卒業よって方、大学をスタートよって方、これから新しい環境で頑張るよって方に、ぜひ聞いてもらいたい曲があります。あの、この曲は私が上京するとき書いた曲なんですけれども、今となってはす

ごく思い出の曲となっております。ぜひ、これからスタートする、今スタートして頑張っている、そんな方に聞いてもらいたいと思

ます。では、最後に聞いてください。TOKYO」

16 TOKYO

アコースティックギター一本の弾き語り。最後のフレーズを、マイクを外して歌ってくれた。マイクを通さない、YUIの透き通った歌声が静かな会場全体に響いた。皆、耳を澄まして聴き入る。

へ走り出した電車の中
少だけ泣けてきた

窓の外に続いている この町は

かわらないでと願った

古いギターをアタシにくれたひと

東京は怖いって言ってた

……………

次の朝がやってくるたびごとに





「子どもテレビ会議」も 日本とスリランカ

世界子ども環境フォーラム in 多摩 (4日—8207教室)

迷うことだつてあるよね
正しいことばかり選べない
それくらいわかっている
新しい環境で頑張っている人、こ
れから頑張る人、上京してきた中大

生にとつては特に心にシンとくる。
鼻をすする声も聞こえた。YUIは、
各ブロックごとに丁寧にお辞儀をし
てフェイドアウトした。
(学生記者 山崎綾香 法学部2年)

小学生による「世界子ども環境
フォーラム in 多摩」。多摩地域の小

学生約50人が参加し、日ごろの環境
活動の成果などを発表した。

午前のフォーラムでは、子
どもたちが学んだ内容を作文
や寸劇で発表し、「川の水を
汚してはいけません」と訴え
た。午後には、スリランカの
子どもたちとのテレビ会議が
行われ、日本では環境を守っ
ていくことが重視されている
が、スリランカでは失われた
環境を作り出していくことに
力が注がれていることなどが
発表を通してわかった。

子どもたちの発表から、お
もしろい場面を拾ってみよう。
「私たちの生活」という発

表の中で発表した子どもから出た一
言。
「成隣小学校では、いま携帯がは
やっています」

「おいおい……時代の変化にたじろ
ぐのは大学生のほうである。」

別の子ども、オチもすばらしい。
「環境活動をする、地球にもお
財布にも優しいです」

後で聞いてみると、「ママと考え
たんだよ」とバラしてにっこり笑った。
衛星回線で結んだテレビ会議のな
かで、スリランカの少女はこう報告
した。

「リサイクルできるものは、リサ
イクルしています」

スリランカの街なかにはプラスチック
クのごみだらけと聞いていた。これ
も大学生スタッフが認識を新たに
した発見である。彼女らは環境活動に
取り組んでいるガールスカウトの子
どもたち。小さな試みだとしても、
すべては身近な「小さな行動」から
始まるだろう。

こんなQ&Aも。

スリランカ「日本での大切なお祭

りはなんですか」

日本「ひなまつりです」

意外と、フツーで古風な回答に安
心したのは記者だけか。

スリランカから3曲、環境に関す
る歌の発表があったが、残念ながら
聞き取ることができなかった。ノリ
のいい曲であったのは確かだが。

このフォーラムは、総合政策学
部の細野ゼミナールが中心となり進め
ている、多摩地域の子供たちを対象
とした体験型環境教育プロジェクト
「集まれ☆たまレンジャー」の第2
部。8月に行われた第1部では、立
川市にある国営昭和記念公園や昭島
市の多摩川を舞台に、川や水をテ
マに大学生が子どもたちを対象に環
境活動を行った。また、8月以降も
子どもたちは、家庭でリサイクルな
どの環境活動を実践してきた。

子どもの作文発表を見に来た母親
の松本三奈子さんは、「買い物に行
くときには、子どもが『ママ、マイ
バック持った?』と、呼びかけるよ
うになりました」と、プロジェクト
が子どもにとどまらず、家庭への波
及効果を生み出している様子を語っ
た。

(学生記者 滝沢孝祐 総合政策学
部3年)